

SDGs169ターゲットとホタテ箸

SDGsは世界が合意した2030年の未来像を示すものであり、現在とのギャップを埋めるイノベーションが必要となります。従来の経済的な考えから政府、行政、研究機関、大学、施設、企業等、そして個人においても社会問題解決に向けた戦略的な取組創発が不可欠となっております。

弊社は、廃棄されるホタテの貝殻を使用したバイオマス素材を主原料としたプラスチック製品を販売しています。この素材は原料の51%以上がホタテ貝殻から作られたものであり、加工業者等の廃棄量や廃棄費用の経済的負担に困っていたホタテの貝殻を有効な資源として使用することでプラスチックの原料となるポリプロピレンの使用量を大幅に減じた環境に配慮した素材です。ホタテの貝殻から製造することで現プラスチック製品の代替が可能であり、石油の使用量を大幅に減らすことが可能です。

この素材及び『ホタテ箸』使用により左記SDGsの取組が可能となります。

活用文書：最終更新日：2018年12月
 国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

	Target	ホタテ箸(リユース箸、リユース割り箸)
	目標3. あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	
3.3	2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。	・ホタテ割り箸を避難所等に備蓄することで、従来の割り箸と比較し備蓄期間の延長及び保管時のカビ菌等の発生抑制に貢献 →使い捨ての食器(感染症対策・働く人の虹感染症)
3.9	2030年までに、有害化学物質、並びに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。	・ホタテ箸に代替することでマイクロプラスチック流出抑制対策に貢献
	目標6. 全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	
6.3	2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物質・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。	・ホタテ箸に代替することでマイクロプラスチック流出抑制対策に貢献
	目標8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する	
8.9	2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。	・東松島市およびホタテ生産地の雇用創出 ・ホタテ箸の産品販促に寄与
	目標11. 包摂的で安全かつ強靭(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する	
11.6	2030年までに、大気の大気質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。	・ホタテ加工業者の廃棄物処理の経費削減とバイオプラスチックの利用促進に貢献
	目標12. 持続可能な生産消費形態を確保する	
12.2	2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。	・ホタテ貝殻をバイオマス素材化に活用することにより天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用に貢献
12.4	2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。	・ホタテ箸に代替することでマイクロプラスチック流出抑制対策に貢献
12.5	2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。	・ホタテ貝殻をバイオマス素材化に活用することにより廃棄物の大幅削減に貢献
12.7	国内の政策や優先事項に従って持続可能な公共調達を促進する。	・SDGs及びプラスチック資源循環戦略に貢献
12.8	2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようになる。	・ホタテ箸を利用することでエシカルを意識したライフスタイルの醸成に貢献
	目標14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	
14.1	2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。	・ホタテ箸に代替することでマイクロプラスチック流出抑制対策に貢献
	目標15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	
15.1	2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する	・ホタテ箸利用により、国際協定が不要であり、自然保護と生態系保全に貢献
15.2	2020年までに、あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で新規植林及び再植林を大幅に増加させる。	・ホタテ箸利用により、外レーサビリティが明確となり不法な森林伐採による自然破壊防止に貢献
15.8	2020年までに、外来種の侵入を防止するとともに、これらの種による陸域・海洋生態系への影響を大幅に減少させるための対策を導入し、さらに優先種の駆除または根絶を行う。	・ホタテ箸に替えることにより輸入木竹製割り箸の昆虫卵、細菌付等付着対策に貢献

既存のイノベーションを採用



12.2
2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効果的な利用を達成させる

天然資源の持続的な管理及び効果的な利用を達成させるために、使用している箸・割り箸を2030年までに全てホタテ貝殻を51%含有したバイオマスプラスチック製の「ホタテ箸」に代替します。



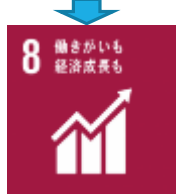
15.2
2020年までに、あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で新規植林及び再植林を大幅に増加させる



13.1
全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する

12.5
2030年までに廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により廃棄物を大幅に削減する

ホタテ貝殻を51%含有したバイオマスプラスチック製の「ホタテ箸」に代替することで、廃棄物の発生防止、削減及び再利用により、ホタテ生産地廃棄物の大幅削減に貢献します。



8.9
2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する



11.6
2030年までに、大気質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する

ホタテ箸へ切替

12.7
国内の政策や優先事項に従って持続可能な公共調達を促進する

ホタテ貝殻を51%含有したバイオマスプラスチック製の「ホタテ箸」に代替することで、「SDGs」及び日本政府が掲げる「プラスチック資源循環戦略」の推進に貢献します。

14.1
2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する

3.3
2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する